

「ヒラギノ角ゴ 簡体字版」が三菱地所のサインデザインルールの制定書体に採用

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のメディアアンドプレジジョンテクノロジーカンパニー(社長：藤澤 恭平)が開発・販売する中国語フォント「ヒラギノ角ゴ 簡体字版」が、このほど、株式会社 三菱地所設計(本社：東京都千代田区/取締役社長：小田川 和男)が監修し、三菱地所株式会社(本社：東京都千代田区/取締役社長：木村 恵司)が作成する「サインデザインブック」において、中国語書体の制定書体として採用されました。

三菱地所株式会社は、2002年に丸の内エリアにおけるサインデザインブックを作成して以来改訂を重ね、このたび、既に規定していた和英表記に中国語・韓国語を加え、4カ国語表記のデザインルールを規定しました。これは、高品質で洗練されたデザインと国際的な街の案内機能としての分かりやすさを追求し、きめ細やかなデザインルールを規定する、業界内でも類を見ない先進の取り組みです。制定された書体は、丸の内仲通りの案内サインや、三菱地所の運営するビル内のサインに使用されることとなります。

当社の「ヒラギノ角ゴ 簡体字版」は、文字品質の高さで国内外に多くの実績を持つ「ヒラギノ」シリーズの読みやすさに加え、既存の中国語書体には見られない現代的なデザインが特長。丸の内という街のイメージにふさわしく、サイン用途として高い視認性を兼ね備えた中国語書体として高く評価され、採用に至りました。

今回のサイン・ディスプレイ用途はもちろん、書籍やカタログ、パッケージなどの印刷物、テレビや携帯電話の画面表示などにおいて、書体はデザインの重要な要素を担います。当社は、これまでの高品質な書体作りの実績を生かし、今後も拡大し続ける高品質な中国語フォントへのニーズに対応していきます。

<関係各位からのコメント>

「サインデザインブック」の監修

■ 株式会社 三菱地所設計 建築設計統括部 宮地 弘毅氏

継続的なサポートが期待できるベンダーのフォントであること、サインデザインブックで既に採用している和文フォント・英文フォントとの親和性が高いこと、細かい部分まで丁寧にデザインされており、丸の内が目指す街の高質感にマッチすることから、採用させていただきました。今後の展開にも期待しています。

「サインデザインブック」のデザインルール策定

■ 有限会社オットィモ 代表取締役 山本 秀夫氏

丸の内の既存フォントとよくなじみ、さらに4カ国語ブロックの中から母国語をすぐとらえられる適度の存在感を持っていることが、選定のポイントでした。ヒラギノは、中国語には珍しいゴシック体でありながらディテールが美しくデザインされており、今後サイン用フォントのスタンダードとなる力を持っていると思います。



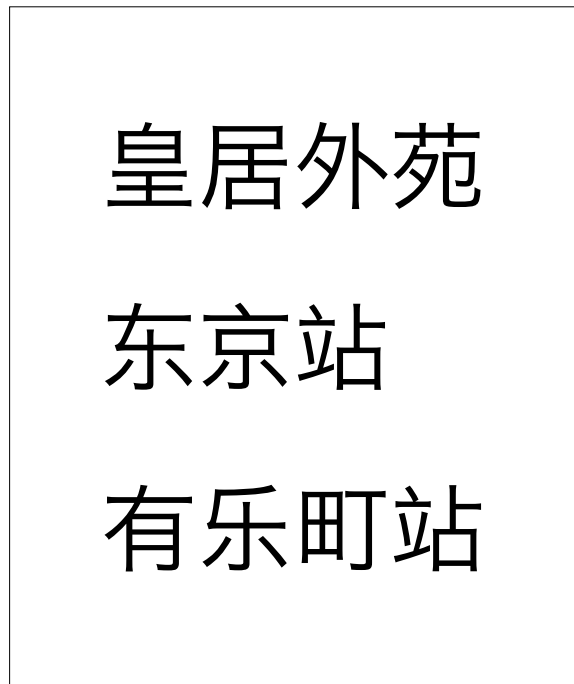
丸の内仲通りに設置された
シリンダーサイン



地図の拡大



誘導サイン



「ヒラギノ角ゴ 簡体字版 (W3)」書体見本

※ これらのサインの和文書体はヒラギノフォントではありません。

* ヒラギノは、大日本スクリーン製造株式会社の登録商標です。